

通事一員 蔡廷美¹⁾

人伴二十七名

存留²⁾在船使者二員 王金 林盛 人伴四名

存留在船通事一員 鄭榮 従人二名

国王世子附搭の倭銅一千斤

嘉靖十年(一五三二)八月十二日

右の符文は正議大夫金良・通事蔡廷美等に付し、此れに准

ぜしむ

進貢謝恩等の
事の為にす 符文

注*この進貢については『明実録』嘉靖十一年四月壬午の条に記事がある。

(1) 蔡廷美 生没年不詳。久米村蔡氏(儀間家)六世。官生として南京国子監に入學。のち長史(『家譜(二)』二五四頁)。

(2) 存留在船使者 「歴代宝案」第一集では明の嘉靖年間以降、清の康熙二年までの符文・執照に記載がみられる。進貢船で福建に渡り、赴京せず、その船で帰国する使者を、同行の赴京する使者と区別するための呼称。接回や探問など赴京要員のない渡航では、船と共に帰る使者も単に使者と呼ぶ。首里・那覇系の人が任じられ、はじめ一船に一、二人であったが、次第に一船二人となり、各人が人伴二人を持つ。康熙三年以降、その名称は在船使者(二七〇三)注(1)参照)となる。

1-25-19

国王尚清の、謝恩のため王舅毛実等を遣わす符文

(一五三五、二、八)

琉球国中山王尚清、謝恩等の事の為にす。

今、特に王舅毛実を遣わし、長史蔡瀚等と共に、表文一通を齎捧せしむ。埋字号船及び小船共に二隻に坐駕し、金靶鞘腰刀二把・銀靶鞘腰刀二把・紅漆螺鈿鍍金銅結束腰刀二十把・紅漆鞘鍍金銅結束腰刀二十把・紅漆螺鈿鍍金銅結束腰刀二十把・紅漆鞘鍍金銅結束腰刀四十把・黒漆鞘銅結束腰刀八十把・鍍金銅結束線穿鉄甲一領・鍍金銅線穿手套一付・線穿鉄護腿一付・貼金鉄護膝一付・頭盛一頂・金箔彩画屏風一對・両面泥金扇二百把・泥金水墨画扇二百把・貼片金水墨画扇一百五十把・貼金穿馬鉄甲二付・貼金馬鉄面二個・象牙五百斤・束香二百斤・檀香二百斤を装載し、京に赴き謝恩し、仍お礼部に赴き告稟して進取せしむる外、茲の諭遣を承くれば、途に在りて遲滞して便ならざるを得しむる母れ。所有の符文は須らく出給に至るべき者なり。

今開す 赴京の

王舅一員 毛実

長史一員 蔡瀚

使者一員 沈布理

都通事一員 梁梓¹⁾ 人伴二十八名

存留在船使者一員 賈滿度 従人二名

護送の小船に坐駕する使者一員 錢林 従人二名

護送の小船に坐駕する通事一員 林喬^② 従人二名

国王附搭の蘇木一千斤・倭銅一千斤

嘉靖十四年（一五三五）二月初八日

右の符文は長史蔡瀚・都通事梁梓等に付し、此れに准ぜしむ

謝恩等の
事の為にす 符文

注*この謝恩については『明実録』嘉靖十四年十二月丁酉、十五年正

月乙丑の各条に記事がある。

(1) 梁梓 生没年不詳。久米村呉江梁氏（亀嶋家）。官生として南
京国子監に入学。のち長史（『家譜（二）』七五八頁）。

(2) 林喬 生没年不詳。久米村林氏（名嘉山家）三世。通事のち
都通事として暹羅へ一回、明へ五回使する（『家譜（二）』九
一九頁）。

1-25-20

国王尚清の、皇帝と皇太子への進貢慶賀のため正議大夫陳賦
等を遣わす符文（一五三七、八、二〇）

琉球国中山王尚清、進貢、慶賀等の事の為にす。

今、特に正議大夫陳賦を遣わし、長史蔡廷美等と共に、表箋文

各一通を齎捧せしむ。黄字号海船一隻に坐駕して馬一十五匹・硫

黄二万斤並びに鍍金銅結束紅漆靶鞘袞刀一十六把・鍍金銅結束紅

漆鞘沙魚皮靶腰刀一十把・鍍金銅結束螺鈿鞘沙魚皮靶腰刀六把を

装載し、京に赴き御前に進賀し、其の鍍金銅結束紅漆靶鞘袞刀一

十二把・鍍金銅結束紅漆鞘沙魚皮靶腰刀一十把は、京に赴き正位

東宮に進賀し、仍お礼部に赴き告稟して進取せしむる外、茲の諭

遣を承くれば、途に在りて遲滞して使ならざるを得しむる母れ。

所有の符文は須らく出給に至るべき者なり。

今開す 赴京の

正議大夫一員 陳賦

使者二員 高志 邁治刺

都通事一員 梁頤^①

人伴十九名

存留在船使者一員 馬益志 人伴二名

存留在船通事一員 金昇^② 人伴二名

国王附搭の蘇木一千斤・紅銅一千斤

嘉靖十六年（一五三七）八月二十日

右の符文は正議大夫陳賦及び通事梁頤等に付し、此れに准
ぜしむ

符文